

静岡の貝類

磐田市福田の海岸におけるカツオノカンムリとアサガオガイの漂着

高山壽彦

2022年11月29日、静岡県西部、太田川河口の東側、磐田市福田の海岸で、花クラゲの仲間、カツオノカンムリ *Veleva veleva* (Linnaeus, 1758) 152個体とともに、終生、浮游生活を行う巻貝の仲間、アサガオガイ *Janthina janthina* (Linnaeus, 1758) 2個体の漂着を確認、採集した。

当日の天気は雨、磐田のアメダスの記録では、平均風速は毎秒5.5m、最多風向は南、最大風速は南西の風、毎秒10.4mであり、海岸では、白波が打ち寄せている状況であった。

カツオノカンムリは、クラゲのように海面に浮游している刺胞動物である。本種は、群性性のポリプであり、三角形の“帆”の乗る盤状の気泡体から、捕食や生殖にかかわる多数の個虫がぶら下がり、周辺部には餌を捕らえる指状個虫がみられる。

カツオノカンムリは、英語で“by-the-wind sailor”（風に乗った船乗り）と呼ばれ、キチン質の“帆”で風を受け、海面を移動できる。風の吹くままに流されることから、風が強く吹いた後には、浜に打ち上げられてしまう。

アサガオガイやその仲間は、足裏から分泌する粘液中に空気をくみ込むことで、気嚢（泡）とし、気嚢を連結することで、“筏”を形成して、外洋の海面を浮游する。浮游しながら、カツオノカンムリや、その近縁のギンカクラゲ、管クラゲの仲間のカツオノエボシ等を捕食する。風が強く吹いた後には、餌動物のカツオノカンムリ等とともに、浜に打ち上げられてしまう。

アサガオガイの仲間の多くは、ルリガイやヒメルリガイのように、海洋の色に溶け込むような青紫色の殻を持つ。アサガオガイはルリガイと異なり、卵胎生であり、子貝を産む。なお、写真のアサガオガイはまだ小型の標本であり、生長すると25mm程度まで大きくなる。

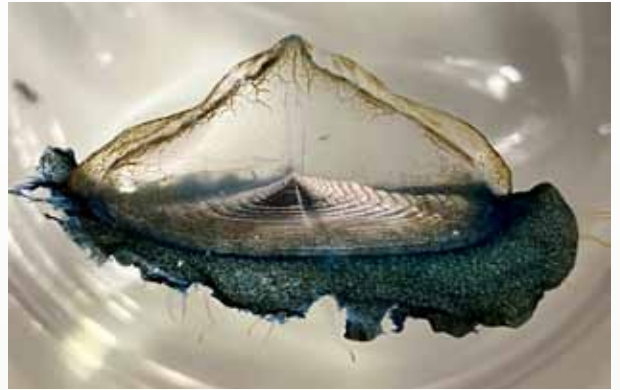


写真-1:カツオノカンムリ:風を受けるための帆が顕著



写真-2:採集したカツオノカンムリ



写真-3:カツオノカンムリの“帆”

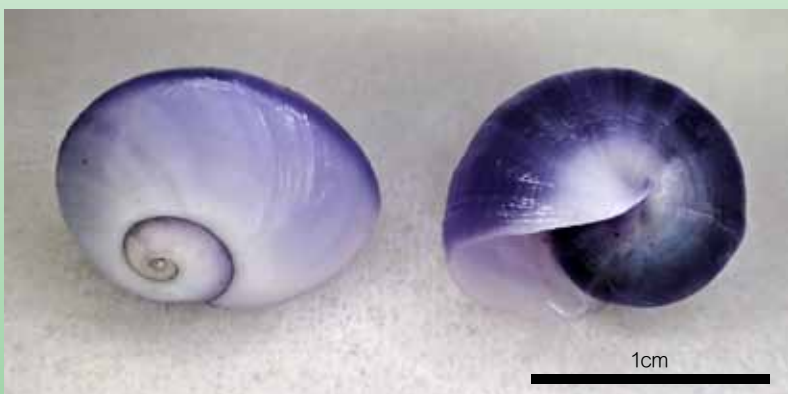


写真-4・5:アサガオガイと、その浮游状況